

平成 27 年 10 月 30 日

各位

会社名 株式会社 新生銀行
 代表者名 代表取締役社長 工藤 英之
 (コード番号 : 8303 東証第一部)

平成 28 年 3 月期 中間期決算について
 ～通期業績目標達成に向け、概ね計画通りの進捗～

当行の、平成 28 年 3 月期における親会社株主に帰属する中間純利益¹は 374 億円、前中間期比 85 億円の増益となり、通期業績予想である 700 億円に対する進捗率は 54%と、概ね計画通りの進捗となりました。単体中間純利益は 252 億円、前中間期比 58 億円の増益となりました。

損益の状況(連結)

(単位:億円)

	平成28年3月期 中間期(6か月)	平成27年3月期 中間期(6か月)	増減額
業務粗利益	1,103	1,111	△7
経費	△697	△700	3
実質業務純益	406	410	△4
与信関連費用	12	△50	62
親会社株主に帰属する中間純利益 ¹	374	289	85
同キャッシュベース中間純利益 ²	410	329	80

¹ 企業結合に関する会計基準の改正を踏まえ、平成 28 年 3 月期より、親会社株主に帰属する純利益、親会社株主に帰属するキャッシュベース純利益へそれぞれ表記が変更されております

² 親会社株主に帰属する純利益からのれんに係る償却額及び企業結合に伴う無形固定資産償却額とそれに伴う繰延税金負債取崩額を除いたもの

業績

- **業務粗利益**は、1,103 億円となり、前中間期比微減。このうち資金利益は 610 億円で、法人部門を中心とするスプレッドの縮小や前中間期の一時的な増収要因の剥落を、コンシューマーファイナンス業務の貸出残高増加に伴う収益の伸長と調達コストの減少が上回ったことなどにより、前中間期比 4 億円増加。非資金利益は 493 億円で、リテールバンキング業務における資産運用商品販売収益、アプラスフィナンシャルの割賦収益および ALM 業務を含む市場関連取引からの収益などが堅調に推移したものの、前中間期に計上された国内クレジットトレーディング業務の大口の収益が剥落し、また、ファンド投資における評価替えによる損失を計上したことなどにより、前中間期比 11 億円の減少。
- **経費**は、697 億円となり、前中間期の 700 億円から減少。経費率は 63.2%。
- **与信関連費用**は、コンシューマーファイナンス業務での貸出残高増加に伴う貸倒引当金の繰入を、法人部門における大口の戻り益が上回ったことなどもあり、前中間期の 50 億円(費用)から、当中間期は 12 億円(益)に改善。
- **親会社株主に帰属する中間純利益**は、前中間期の 289 億円から 85 億円増益となり、当中間期は 374 億円。
- **単体中間純利益**は、前中間期の 193 億円から 58 億円増益となり、当中間期は 252 億円。
- **総資産**は、平成 27 年 3 月末の 8 兆 8,898 億円から 1,093 億円増加し、平成 27 年 9 月末は 8 兆 9,992 億円。

資本および資産の質

- **自己資本比率**は、引き続き十分な水準を確保。バーゼル 3 国内基準(経過措置適用ベース)での**連結コア自己資本比率**は平成 27 年 3 月末の 14.86%から平成 27 年 9 月末には 14.26%へ低下。バーゼル 3 国際統一基準(完全施行ベース)での**普通株等 Tier1 比率**は平成 27 年 3 月末の 11.9%から平成 27 年 9 月末には 12.5%に上昇。
- **不良債権比率**は、不良債権処理の進展などにより、平成 27 年 3 月末の 1.42%から平成 27 年 9 月末の 0.83%へ低下。

当中間期決算の詳細については、以下当行 URL(「IR 情報」メニューの中の「四半期決算情報」)をご覧ください。

URL: http://www.shinseibank.com/corporate/ir/quarterly_results/index.html

以上